

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第51週 (12/16-12/22) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	51週	50週	49週	48週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市						千葉県
		注意報	12/16-12/22	12/9-12/15	12/2-12/8	11/25-12/1	12/9-12/15	
			51週	50週	49週	48週	50週	
小児科	RSウイルス感染症		1 0.06	1 0.06	1 0.06	1 0.06	37 0.27	
	咽頭結膜熱	○	11 0.61	9 0.50	16 0.89	8 0.44	113 0.84	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		40 2.22	55 3.06	55 3.06	44 2.44	709 5.25	
	感染性胃腸炎		213 11.83	142 7.89	131 7.28	102 5.67	837 6.20	
	水痘		9 0.50	9 0.50	7 0.39	11 0.61	130 0.96	
	手足口病		3 0.17	20 1.11	21 1.17	19 1.06	93 0.69	
	伝染性紅斑		4 0.22	8 0.44	11 0.61	15 0.83	50 0.37	
	突発性発しん		2 0.11	3 0.17	11 0.61	8 0.44	48 0.36	
	ヘルパンギーナ		0 0.00	1 0.06	1 0.06	1 0.06	9 0.07	
	流行性耳下腺炎		1 0.06	0 0.00	0 0.00	1 0.06	12 0.09	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	◎★	540 19.29	321 11.46	184 6.57	75 2.68	3,559 16.55	
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	流行性角結膜炎		2 0.40	2 0.40	3 0.60	0 0.00	19 0.54	
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11	
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	10 1.11	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(9件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	女性	40歳代	病原体等の検出	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	80歳代	細菌の分離・同定、薬剤耐性の確認及び起因菌の判定
結核	女性	50歳代	IGRA検査				
E型肝炎	女性	50歳代	血清IgA抗体の検出	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	男性	70歳代	病原体の分離・同定
百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出				
百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	40歳代	病原体の分離・同定

・第51週は、結核2件(161)、E型肝炎1件(9)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(20)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2件(10)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(12)、百日咳2件(137)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第51週のコメント

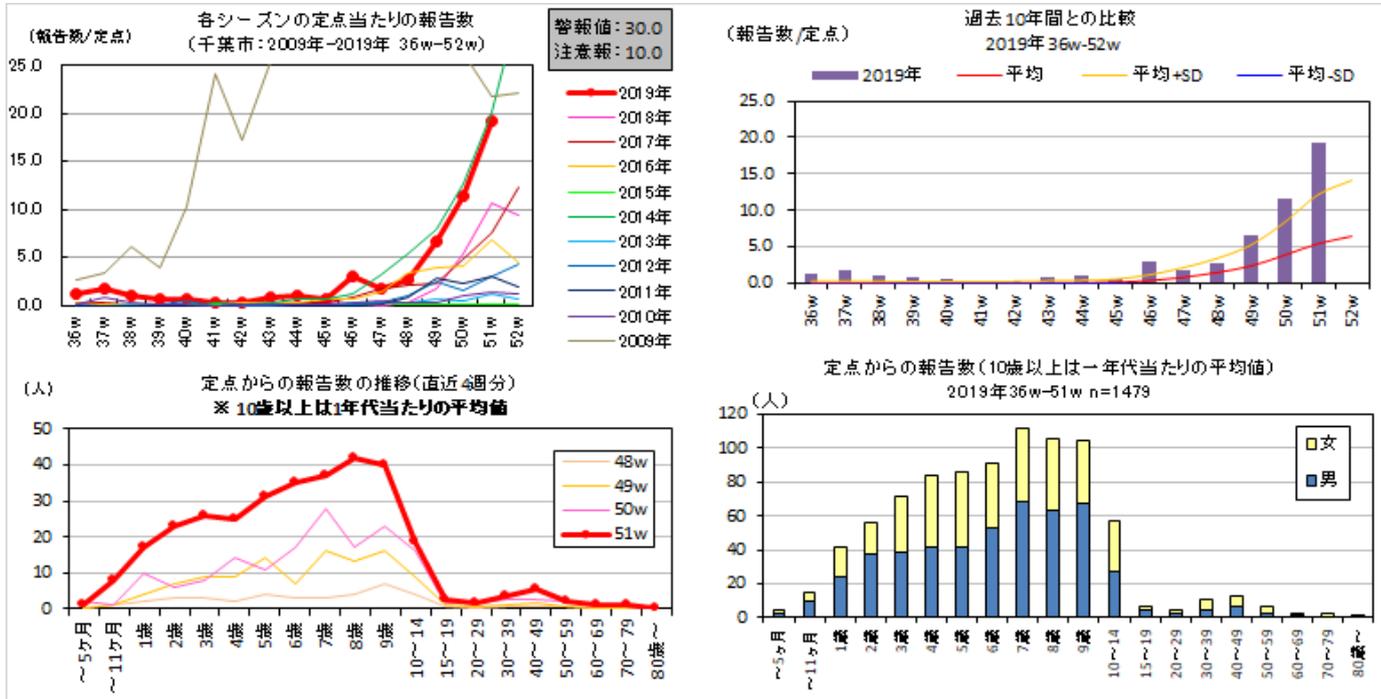
<咽頭結膜熱> 前週より増加し0.61となった。過去10年の同時期と比べると非常に多い。

<インフルエンザ> 前週より増加し19.29となった。流行発生注意報基準値を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると非常に多い。

■ トピック ■

<インフルエンザ>

全国レベルの第50週の定点当たりの報告数は15.62となり、流行発生注意報基準値(10.0/定点)を上回りました。過去10年の同時期と比べると2009年のパンデミックを除き最多のままとなっています。都道府県別では山口県、北海道、宮城県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は16.55で、ほぼ全国レベルと同等となっています。千葉市の第51週は前週より更に増加し19.29となりました。流行発生注意報基準値を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると非常に多くなっています。区別の発生状況は全区で流行発生注意報基準値を上回っており、若葉区(29.25/定点)で最多で、同区の10歳代前半で最も多く、10歳未満では8歳で最も多くの報告がありました。今シーズンである2019年第36週から第51週までの累積報告数は1479件で、性別では男性が52.7%(779名)、女性が47.3%(700名)となっており、年齢階級別では7歳(7.6%:112名)、8歳(7.2%:106名)、9歳(7.1%:105名)の順で多く、20歳未満が全体の73.8%(1091名)、10歳未満が全体の52.3%(773名)となっています。



	第51週	市全体	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区
基準値超過		注意報	注意報	注意報	注意報	注意報	注意報	注意報
過去10年の同時期との比較		非常に多い	多い	非常に多い	最多	非常に多い	とても多い	非常に多い
昨年の同時期との比較		多い	少ない	少ない	多い	多い	多い	多い

<咽頭結膜炎>

全国レベルの第50週の定点当たりの報告数は0.80となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では鹿児島県、鳥取県、福井県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.84で、ほぼ全国レベルと同等となっています。千葉市では第43週から例年の動向とは違って増加傾向にあり、第51週は前週から増加し0.61となり、過去10年の同時期と比べると非常に多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(3.50/定点)で流行発生家報開始基準値(3.0/定点)を上回り最多で、同区の1歳及び5歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第51週までの累積報告数は321件で、性別では男性が58.9%(189名)、女性が41.1%(132名)となっており、年齢階級別では1歳(22.4%:82名)、3歳(17.1%:55名)、2歳(14.3%:46名)の順で多くなっています。

